

# 日刊 磐城時報

編輯 石城郡平町新屋町十四  
印刷 石城郡平町新屋町十四  
發行 石城郡平町新屋町十四  
電話 一四〇  
廣告料 一行十文字五錢  
日刊 日曜 祭日 休刊

## 平町の膨張は 愈々南漸する

### 新川南に役場と並んで 第四小學校が出来る

平町新築役場は最初の計画では敷地を平町仲町内に設ける豫定でその買収交渉も進捗したのであつたが、その後に至り敷地買収費の關係から新川南に敷地を設けた方が利益であるといふ説が出で、之に賛する者多く町當局では字堂根町附近の土地買収に奔走してゐるが、漸やく千二百坪の敷地買収が纏つた、千坪は役場敷地に當り、二百坪は道路を造る筈であるといふが、役場新築と共に第四小學校を之に並べて東側に新築する計劃でこの敷地買収も大体纏つたといふから本年度中には平町の膨張も愈々南漸して遂に新川を越へるわけである。

## 平町商工会 役員決定

### 常評議員顧問等

今回平町に新設された平町商工会は會長山崎清三氏、副會長諸橋守治氏と決定したこと既報の如くであるがその他の役員はこの程左記の如く選任された。

顧問 伏見彦衛、吉田利吉、鈴木堅助、明智淺吉、永山和平、柳田榮太郎、常評議員猪狩

## 大敷網の 假處分公判

### 次回は二十七日

小名濱大敷網問題に關し白井氏側で提起した高橋氏に對する假處分申請は平區裁判所に於て白井氏に保證金二萬圓を供托せしめて命令を發したが、一方高橋氏が白井氏側に對し同様の假處分申請をなした事件の第一回口頭辯論は三日平區裁判所に開延未結審のまゝ、開延したが来る二十七日續行の筈である。

## 四倉町議改選は 結局無競争か

四倉町會議員改選期も本月三十日に迫つたが定員十八名に對し立候補者目下の處十八名で、政友側の武藤豊氏出馬せるは某候補者の爲め一時の策戦に過ぎぬ

## 陸上競技會 濱三郡男教員

東部聯合教育會主催濱三郡小學校男教員第二回陸上競技會は来る十二日午前十時から平町警署校庭に於て開催されるが競技種目は六十メートル、百メートル、四百メートル、千五百メートル、八百メートル、一キロメートル、走り高跳、三段跳、砲丸投、柔術。

## 名士八百名を招んで 小名濱商港起工式

### 協賛會を組織して 来る二十二日盛大に舉行

本縣が一大事業として本年から小學校下の海岸砂漠地で總理大繼續して行ふ第二種港灣として、内務大臣、農林大臣、貴族院議員、前本縣知事であつた伊東、長崎知事その他朝野の名士八百名を招待し盛大に舉行する事決定したので小名濱町連轉して好問村大字下好問地内に縣道を開通中横合より同所鈴木常松(五二)の五男彰(七二)が懸けた際危険を知つて我子を引戻さ

## 植田町長問題 明六日より協議會開催

石城郡植田町に於ける町長問題といた常松諸共泥よけに觸れは政、民兩派の意志一致せず未だに決定を見ないが、十二名のみに全治二週間の裂傷を負つた。町議中政、民兩派とも各々六名の議員を擁し、政友會では古川傳一氏、民政派は驚愕昇氏を推しつゝあり、かくては何平町字大工町居住大工職片寄某時まで経つても町長の決定は至(二三)は去る二日平野巡査派出所に血眼となつて飛び込んだので係官がその事情を聞く同人めに憂慮すべき事と云はれて居るは一月前妻あき(一九)と右の場内に右問題解決の協議會を開の間同棲僅二月にしてあきは催する筈であるが、政、民兩派何處かに雲がくられたので行方も相譲らぬ爲め協議會では驚愕昇氏の前半期、古川氏後半期の和解案が議題となるらしく見られ、その成行きを注目されてゐる。

## 若妻に逃られ 夫血眼で訴出る

平町字大工町居住大工職片寄某時まで経つても町長の決定は至(二三)は去る二日平野巡査派出所に血眼となつて飛び込んだので係官がその事情を聞く同人めに憂慮すべき事と云はれて居るは一月前妻あき(一九)と右の場内に右問題解決の協議會を開の間同棲僅二月にしてあきは催する筈であるが、政、民兩派何處かに雲がくられたので行方も相譲らぬ爲め協議會では驚愕昇氏の前半期、古川氏後半期の和解案が議題となるらしく見られ、その成行きを注目されてゐる。

## 尻尾の無い馬 龍田村に生る

縣下馬の産地として知られて居る双葉郡龍田村字上繁岡佐藤萬吉方では飼養の牝馬が仔馬を分娩した處、馬として大事なる尻尾が無いので近郊近在から見物人が殺到して居る全國に於て最も珍らしい馬であるとして同家にはこれ馬を學術研究資料にしたといふ縣に技師の派遣方を申請して来たので近く縣畜産係技師が出張詳細調査をする事になつた。

## 親子負傷 自動車に觸れ

平町古殿治町大平新吉方自動車運轉手木田義直(二六)が一日午前八時四十分頃に乗合自動車運轉して好問村大字下好問地内に縣道を開通中横合より同所鈴木常松(五二)の五男彰(七二)が懸けた際危険を知つて我子を引戻さ

## 修學旅行通信 警高女四年生

三十日 明方の光が紫に擴がった伊勢灣の海には真帆片帆が鷗の様に滑つてゐる。波の静けさ伸びやかさが心を静めてくれる。連山は薄藍色に空はオレンジに彩られると間もなく太陽があか／＼と夫婦岩の間から出た。あたりは管歌喜に満ち、かきは手の音が四方から起つた。私達は恍惚として何處にあるのか分らなかつた。

## 讀者と記者

(問)私の身うちに私生子になつて居る者があります、何とか訂正したいのです、現に其者の母親は私の兩親の家に居ります、分家して現在の親の養子と何かならぬでせうか  
(答)私生子は父が認むれば庶子となり、父母が婚姻すれば嫡出子たる身分を取得するの

でありますが、其他の方法によつて私生子でなくすることは出来ません、尤も私生子は其父母其他の人も養子縁組をすることが出来て、縁組をすれば養子として嫡出子たる身分を取得することが出来るのです、さうするには必ずしも分家する必要はありません。

